堀口捨己建築設計資料の寄贈受け入れ

[資料紹介]

青山(高瀬)道乃*

The history of the preservation of the architectural design materials of Horiguchi Sutemi and their donation to NAMA

AOYAMA TAKASE Michino

The architecture of Horiguchi Sutemi is one of the most important documents for understanding the modernization of architecture in Japan. For a long time, his documents have been protected in several places by Horiguchi Stemi Architectural Archives and its volunteers. Now NAMA has received a donation of a complete set of the materials from them and Horiguchi's relatives. The purpose of this paper is to present the history of this donation and to discuss its value and importance.

キーワード：堀口捨己、国立近現代建築資料館、資料保存
Horiguchi Sutemi, NAMA, conservation

1. はじめに

堀口捨己(1895-1984)は日本建築史、庭園史および茶の湯研究に精通した建築家である。文化庁国立近現代建築資料館 National Archives of Modern Architecture, Agency for Cultural Affairs [NAMA] (以下 NAMA) では、資料を管理する堀口アーカイヴズから相談を受け、2022年度より堀口の資料収蔵に向け調査を進めてきた。本報告では、資料の概要調査より明らかになった資料の特徴とそれをもとに検討した今後の資料整理の方針について説明するものである。

2. 資料の経歴 保存まで

堀口は1949年から1965年まで教授として明治大学で教鞭を執りつつ設計活動をしていた。そして1965年の明治大学定年退職時に、駿河台校舎の研究室にあった資料を大森の自邸に、聖橋校舎の研究室にあった資料を生田キャンパスに建設された工学部校舎に運ぶよう指示をした。明治大学に残された資料は、堀口研究室の最後の卒業生で、同大助手(のちに教授)だった木村儀一(建築計画)が守り続けた。一方、2005年大森の自邸が取り壊される際、遺族が東京工業大学大学院教授の藤岡洋保(元・明治大学助手)に資料の確認と引き取りを依頼し、網羅的に藤岡研究室に移された。これらの資料については、木村と藤岡により資料整理・保全・データベースの作成が行われた。これらの資料を散逸させないため、木村儀一・藤岡洋保・岩橋幸治(早川正夫建築設計事務所)・山崎鯛介(東京工業大学大学院理工学研究科建築学専攻助教)は「堀口捨己建築アーカイヴズ」を組織し、資料の保存や管理を行ってきた¹。

3. 木村・藤岡による図面資料整理について

明治大学分については1997年から木村が代表者として科学研究費を取得し(堀口捨己図面史料に関する基礎的研究、1997-1999年)資料が整理された。含まれる資料は建築設計のための図面と文書の資料。明治大学に残された大量の図面はプロジェクトが分散した状態で資料が残されていたため、プロジェクト及び設計段階ごとに整理された。その成果は論文「明治大学所蔵堀口捨己資料の内容とその建築史的重要性」²にまとめられ、堀口の業績を裏付ける重要な一次資料となっている。

東京工業大学分については2006年から藤岡が代表者である科研費を取得し(堀口捨己資料(自邸所蔵分)に関する研究、2006-2008年)資料が整理された。含まれる資料は建築設計のための図面と竣工写真、建築研究のために作成した実測図面や撮影した写真、個人資料など多岐に渡る。これらの図面資料についても同様にプロジェクトごとに整理された。成果は同名称の報告書³にまとめられた。これらの資料は堀口の建築観を示す資料となっている。

また、これらの研究成果をもとに藤岡が『表現者・堀口捨己—総合芸術の探求—』⁴を執筆し、日本建築学会賞(論文)を受賞している。

4. 資料の経歴 出展歴

以下に堀口没後に当該資料を用いて行われた主要な展示について示す。

1995年 明治大学「堀口捨己の建築展・明治大学校舎とその他の作品」⁵

*元・文化庁国立近現代資料館 研究補佐員、現・早稲田大学創造理工学術院建築学専攻 博士後期課程

- 1998年 東京都現代美術館「建築の20世紀 終わりから始まりへ At the end of the century One hundred years of architecture」⁶
- 2001年 ギャラリー・タイセイ「堀口捨己展」⁷
- 2019年 江戸東京たてももの園 「特別展 小出邸と堀口捨己—1920年代の創作活動、その造形と色彩—」⁸
- 2021年 京都国立近代美術館 「分離派建築会100年：建築は芸術か？」⁹
- 2023年 Amsterdamse school museum HET SCHIP 「1923:Horiguchi meets the Amsterdam School」¹⁰

いずれも堀口アーカイヴズ(またはその前身者)が展示協力を行っていることが、図録等から明らかになっている。

5. NAMA での受け入れ 資料整理方針

以上のように同組織により資料が継承されてきたが、メンバーの高齢化や、明治大学と東京工業大学に分散される状況に対し、今後については一体として保存活用がなされるよう、NAMA への寄贈について検討が始まった。2023年1月に明治大学と東京工業大学に所在していた資料のうち、堀口捨己の設計活動の業績に関すると思われる資料をNAMAに移送した。選定は上記資料調査の報告書をもとにしつつ、木村・藤岡・山崎の助言を受け、一体として保管されていたものについて網羅的に行った。ただし、茶の湯の研究資料などNAMAの収蔵基準とは離れる分野の資料については輸送を見送った。資料には図面、写真および文書資料(各設計の記録や個人資料等)が含まれる。

その後、NAMAとして所蔵すべきものであると確認できたものから順次寄贈を進めており、「堀口捨己建築資料」として資料群を構成する予定である。寄贈にあたり、報告書の内容に限らず調査の記録を含むデータベースを提供いただいた。このように、堀口資料は輸送時には研究者により資料整理と編成が行われた状態であった。

NAMAでは資料の輸送時の原秩序に基づいた3階層(フォンドーファイル—アイテム)の資料番号で管理し、そのファイル情報をデータベースで公開する方法が主流となっている。このため、今回の資料整理では整理された編成をなるべく崩さずファイル番号として継承した¹¹。ただし、明治大学より移送した資料については明治大学の設計に係る資料に未調査のものが多かったため、優先的に資料整理を行い速やかな公開に備える予定である。

NAMAでは、堀口の多様な活動を研究・検証できる

よう、資料群を一体として収蔵・公開することを第一の目的としつつ、継承の過程についても調査記録を行いながら資料整理を進めている。

注

- 1 以上本章の内容は2025年11月までのNAMAによる堀口捨己建築アーカイヴズへのヒアリングに基づく。
- 2 木村儀一、藤岡洋保、岩橋幸治、山崎嗣介、中山伸「明治大学所蔵堀口捨己資料の内容とその建築史的重要性」日本建築学会計画系論文集 第69巻 第578号、pp.163-168、2004年
- 3 藤岡洋保「平成18～20年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書・堀口捨己資料(自邸所蔵分)に関する研究」東京工業大学理工学研究科建築学専攻藤岡研究室、2009年
- 4 藤岡洋保「表現者・堀口捨己—総合芸術の探求—」中央公論美術出版、2009年
- 5 堀口捨己建築作品資料保存委員会編「堀口捨己作品集 明治大学」(1995年12月20日)が発行されている。この作品集は堀口設計の明治大学校舎の竣工写真および図面まとめられ、編集後記には代表幹事を木村儀一とする「草庭のかい」が明治大学堀口捨己建築作品資料保存委員会と資料整理、展覧会実施をおこなったと記される。
- 6 この展覧会はロサンゼルス現代美術館(MOCA)が主催し、1998年7月10日から同年9月6日の東京都現代美術館を皮切りに世界の複数個所を経たのち、MOCAでは締めくくりとして2000年4月16日から同年9月24日まで開催された。図録p.18には展覧会に作品を貸与した機関として明治大学堀口捨己資料室が記される。図録はRussell Ferguson et al.: At the end of the century: one hundred years of architecture, Museum of Contemporary Art, Los Angeles & Harry N. Abrams, Los Angeles, 1998。日本語訳版はデルファイ研究所編「建築の20世紀：終わりから始まりへ」デルファイ研究所、1998年。
- 7 図録は堀口捨己「堀口捨己展」ギャラリー・タイセイ、2001年
- 8 図録は東京都歴史文化財団江戸東京たてももの園「小出邸と堀口捨己：1920年代の創作活動、その造形と色彩：江戸東京たてももの園特別展」東京都歴史文化財団江戸東京たてももの園、2019年
- 9 図録は分離派100年研究会「分離派建築会100年：建築は芸術か?」朝日新聞社、2020
- 10 図録はRoegholt et al.:Sutemi Horiguchi, Bunriha and the Amsterdam School, Museum HetSchip, 2023
- 11 2024年6月時点では以下のように資料番号を作成した。堀口捨己資料群のフォンド番号を31とし、ファイル番号1～80を2023年NAMA移送時点で東工大に保管されていたもの、85以降に2023年NAMA移送時点で明大に保管されていたものを、原則として堀口捨己建築アーカイヴズの作成したデータベースの最小分類ごとに登録し、ファイル単位の資料名にも採用した。いずれにも手書きの図面原図資料が含まれ、ファイル1～80には主に個人邸や茶室、85以降には明治大学校舎のものなどがある。

(2024年12月10日原稿受理)